



社会福祉法人おおぞら会 広報紙

SSKP

はばただより

vol.149

ひとつのユニットが4~7名なので、せかせかすることなく、ゆったりと過ごせるのがホームのメリット。

職員もこまやかに、ひとひといとやりとりできる時間を大切にしています！

ぼく手伝うよ！



ありがとう！助かるよ

…つむぎの家2F ユニットの生活風景…



誕生日にはケーキでお祝い！

おおぞら会のグループホームは、現在4つのユニット20名の方々が暮らしています。常勤職員とパート・アルバイトの割合は約1:4、早番・遅番・泊まり、日勤をシフト制で分担します。世の中全体が人手不足ですが、24時間365日を賄う勤務形態はとくに深刻です。

ホームの仕事は時間が不規則とか、介助や夜間勤務の大変さがグルーズアップされることが多いのですが、実はその「大変」の根っこは「人がいないから」というのが実態ではないでしょうか。休みたいときに休めない、無理なシフトを作らざるを得ない、職員同士が話をする機会がつかれない、急な対応やシフトに穴が空けば休みでも出ざるを得ないなどの実態は他の多くのホームでも起こっていることです。その閉塞感が心身の疲弊感に直結してしまうのではないのでしょうか。

ホームは利用者にとって「家」です。その方の人生の中に起こる様々な課題と一緒に考えていく大事な支援の場です。「大変そう」と敬遠される前に、やりがいのある仕事であるということをもっと広めなくては…と切実に思うこの頃です。

(管理者 入倉暁子)

今さらですが、「いのちが大切にされる社会」を！！

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

新年度が始まり早3か月が経過します。自分も高齢者になって、いっそうその様に感じるのかも知れませんが、不変であるはずの「時間の経過」が、加速しているように思えて仕方ありません。「一日一日を大切にしなければ」と思いつつ、なかなかそのように生活できていない現実があります。読者の皆様はいかがでしょう。

おおぞら会が、社会福祉法人の認可を受けて、1998年4月にアクティビティセンターはばたけの事業を開始して26年が経過しました。

様々なことがありました。平穏な時、嵐の時、希望に満ちた時、不安にさいなまれた時、その時々に関わって下さった多くの皆さまと共に事業を継続し、ここまでやっとたどり着いたと実感させられています。

時代が変わり、制度も大きく変更されました（最近、特に目まぐるしく制度が変えられているように思えます）。けれども、おおぞら会が大切にしてきたものを維持しつつ、これから先の26年をどの様に事業継続・事業展開していくのか、現在の利用者の皆さんの様々なニーズに対応し、それを続けるためにも、理事長としての責任を痛感させられています。さまざまな生き難さを抱える利用者の皆さんが、「地域と関わりつつ生活をする」ことの大変さ、これを支えることの難しさを感じることも多くあります。おおぞら会の事業だけで、おおぞら会の職員だけで、これを担うことの難しさを痛感させられてもいます。行政の皆さん、他法人の皆さん、障がい者福祉・高齢者福祉・児童福祉・教育・医療・司法行政などなどに関わる皆さん、民生委員さんや、町内会や近隣の皆さん、ボランティアの皆さん他、多くの皆さんが関心を持って下さり、具体的に関わって下さることで「当事者の地域での暮らしが支えられている」ことを痛感させられています。本当にありがとうございます。これらのネットワークの中で、個々の利用者さんやそのご家族を支えることに、おおぞら会はどの様な役割を果たすべきなのか、何を分担すべきなのか、個々の事例ごとに思案を重ね、試行を重ねております。このことにひた向きに頑張っている当法人の職員を誇りに思っています。

これらの試行錯誤は、法人の経営が安定して継続することが大前提となります。そのことをしっかり自覚しつつ、今年度も頑張っていきたいと思います。皆々さまの変わらぬご支援をこれからも賜りますよう、せつにお願い申し上げます。

福祉実践は「いのちが大切にされる社会」の存在が前提で成り立つものです。世界各地で今も続く「いのちが粗末にされる」戦争の終わりの年度となってほしいと、念じつつ。



はばたけ入所式…みんなおすまし！

野ざきの家

【小規模多機能型居宅介護】



夏本番！

もうすぐ夏…夏は花火に盆踊りと幅広い世代の方が楽しめる季節です。利用者の皆さんに子どもの頃の思い出を尋ねると、スイカ割り・たこ焼き・かき氷・金魚すくい等懐かしそうにお話ししてくれます。そして夏祭りは、台風の発生や害虫が増え農作物の被害や疫病の流行でお亡くなりになった方の鎮魂や疫病退散祈願の目的が始まりと言われています。「お祭りの料理はお供え物でもあるのよ。」と皆さんから教えてもらいました。

先日、野ざきの家で育てているキュウリが3本実り、利用者の皆さんが収穫・調理を手伝ってくれました。キュウリのへたを切り落とし斜めに均等に切り、ジップロックの空気を抜きながら塩もみをして。会話の中から夏祭りの一品に加える提案をして下さいました。日頃のやり取りから「こうだったらどう?」「こういうのもあるわよ。」など色々提案してくださり皆さんが楽しみにしている事に嬉しさを覚え、話し合いをする過程で一体感や信頼関係が築けて行っているのかなと実感する瞬間です。

今年の夏まつりは、よりゆったりとした時間を過ごし、お仲間や職員と楽しい時間となるよう2日間に分けて行うことにしました。皆さんが主体的に参加出来るよう関わりながら、楽しく思い出に残り、食事やレクリエーションのゲームに夢中になれる時間が過ごせたらと思います。

(介護福祉士 三科紀美子)

介護の仕事、どうですか？

人手不足が叫ばれる福祉業界。介護の仕事って実際どう？働いている中で感じていること職員に聞いてみました！

野ざきの家で勤務し始めて4年目になりました。介護職4年間でも沢山の方との出会いがありました。利用者さんそれぞれ性格も違い同じ人間はいません。介護職で何が正解かはわかりませんが、働きながら思った介護観は、利用者さんに寄り添ったケアを行うことです。利用者さんに関わる人は多くいますが、そのなかで最も身近で寄り添えるのが介護職だと思います。介護職は利用者さんと長時間にわたって直接関わるので、体調や生活の変化に気づきやすい存在。顔色や表情から心身の状態を察するだけではなく、今までの生活習慣を継続できているかなど、細かいところにも気づける介護職にしかできないケアがあります。利用者さんの生活を近くで支え、小さな変化にも敏感に気づける、プロの介護職になりたいです。

(介護職員 近江 里夏)



工房 時【就労継続B型】

工房時では、自家製面のうどん屋「おもむく食堂」、
焼き菓子の製造販売をしています！

…詳しくはHPをご覧ください…

新年度のはじまりから2カ月が経ち、ようやく少し落ち着いてきたかな？という工房時です。
新しい利用者さん・職員が加わり、活気のある毎日が続いています。

ここ数年、家族の皆様からは、これから先のことに関する不安が多く聞かれるようになりました。いわゆる80・50問題です。親が80歳代、子が50歳代になり在宅介護の限界を迎える事例が実際に起こり、皆さんのこれからの暮らしをどう支えていくのか？という課題に直面しています。これまで一緒に暮らしていた親御さんに認知症の兆候がみられるようになった、急な病気で入院されたなど、今日明日の居場所を探さなくてはならないという状況も起こってきています。家族も途方に暮れ、何より利用者ご本人が不安に陥り混乱をされているという状況下で、私たちはどう動き、どう支えればよいのか、ということ突き付けられる場面をいくつか経験しました。

その中で、相談支援事業所（計画相談）の存在は非常に大きなものです。一人暮らしなら各種ヘルパー派遣サービス、それが難しければグループホーム、事情によっては入所施設…と多様な福祉サービスから何をどう組み合わせるのかを考え、各事業所との協議をリードして利用契約・支援の実施継続につなげます。これはとても大きな役割です。支援者の輪をつくることで、全体で考えることができます。時代に合わせて制度・サービスが拡大充実してきたことと同時に、それぞれの事業所の役割分担も整理されました。「通所施設だから、平日日中しか対応できません」などとその役割だけに終始してしまったり、それぞれが分断されたり見えない環境では、ニーズを見落としたりすくえない状況が生まれてしまいます。ご本人や家族が出せないSOSを見つけられる立場にある私たちに求められるのは、普段のサービスの枠を少しはみ出で、他のサービスとの隙間を埋める・つなげる役割だと考えます。

法人理念にも、みなさんの思いや希望に沿ったご本人主体の支援ということを掲げています。日々の活動の中では実践していますが、その方の暮らし全体と言う点で考えたとき、これは私たちだけで達成できるものではありません。ニーズの高い事業所（グループホームや短期入所）が地域に不足している状況もあります。他の法人・事業所や行政、地域住民の方たちとつながりながら、安定した暮らしが作られ、支えられていくのだと改めて思います。

（管理者 中野昭精）



4月から新しいメンバーも増えました。

おもむく食堂よろしくお願いします！

アクティビティセンターはばたけ (生活介護事業)

*2024 年度がはじまりました。

新たに 1 名の利用者をお迎えし新年度が始まりました。職員の異動やグループメンバーの入れ替えもあり、新たな雰囲気でのスタートとなっています。今年度は 3 年に一度の報酬改定があり、生活介護は開所の利用時間や定員といった部分でのシビアな対応を求められることとなりました。そんな中みなさんが安心して通所できる場所として、「今日もはばたけ行ってみよう」と思われるような様々な取り組みにチャレンジしていきたいと思います。

よろしく
おねがいします！



*本格的な夏がくる前に～(東野第二公園)公園清掃

草木の伸びるスピードもあがり、公園清掃に行くメンバーもエンジンがかかってきました！夏前にできるところからコツコツと進めています。「頑張ってるね。ありがとう」と公園前のバス停を利用される方やご近所の方からお声をかけていただき、励みとなっています。先日は「お疲れさま。後でどうぞ。」とたくさんの飲みものをご寄付いただきました。さらに元気の出るお言葉にととても癒され、疲れも吹き飛びました！これからやってくる暑さもしっかり対策しつつ、頑張っていきたいと思います。



*音を楽しむ ～ 音楽療法&ダンス活動♪

音楽療法では、講師の内川先生にリードしていただき行っています。長年参加してきた先輩メンバーも「音」を楽しみ、新しいメンバーもその様子をみながら楽器を手に取りピアノに合わせて表現していました。生の音と触れ合う貴重な時間でみなさんが大好きな活動です。

ダンス活動では元気のよい音楽が流れると体を揺らし、決めポーズ！ソロパートでは、表現力ゆたかに一人一人が主役になれる大切な時間。ゆったりした曲に合わせてクールダウン。明るい食堂をダンスフロアに変えて楽しんでいます。講師の渡辺先生のセンスと溢れるパワーにひっぱられ参加者の「すっきりした！」ということばや表情が大切な時間を物語っています。



(管理者 柴田信)

サポートネットあすは 《移動支援・同行援護・行動援護・居宅介護事業》

4月に異動でこの事業を担うことになり、初めの大仕事がガイドヘルパー養成研修でした。地域の担い手を育てる研修ですが、あらためて職員も基本に立ち返ることの大切さについて学び直しをすることができる研修で、身が引き締まる思いです。

「利用者主体」はもちろん、当事者にとっての「むずかしい」「ややこしい」「わからない」といった、社会生活における障害を一つひとつ取り除き、社会参加するためのサポートをすることがあすはの基本方針です。そして一歩外に出て「たのしい!」「うれしい!」「できた!」「疲れたけどがんばった!」といった気持ちや達成感を持つことができ、その気持ちをガイドヘルパーと共有してヘルパーとの関係性を築いていくことができれば良いと考えています。また帰宅後に充実した表情が見られ、「今日ここへ行ったよ!」と会話が広がって、夕食のひとときが楽しくなったら嬉しいな、と思います。

私はこの3月までグループホームに所属していました。ホームは利用者にとって「自宅」なので、我慢や遠慮をすることなく我を出せる場所です。そのため私も、振り返ると支援者というよりは家族兄弟のような感覚で接していたように思います。

そして今、ヘルパーを派遣する立場となり、また自分自身もガイドヘルパーとして現場に入る中で職員と利用者との距離感の違いを感じ、これまで良くも悪くも距離感が近かったのだなと実感しました。「外の顔」「家での顔」、そこに携わる職員もそれぞれの立ち位置がありますが、今は利用者の方々とほどよい距離感のある関係が新鮮で心地よく、毎日新しい発見を楽しんでいます。

そんなガイド中、印象に残った出来事がありました。ガイドの帰り道がてら「明日(土曜日)は何か予定があるんですか?」など何気ない会話をしていた時に、唐突にその方から言われたのです。

「ともだちに、、、なろうよ!」と。

私が今まで50数年間生きてきた中で、「ともだちになろうよ」という言葉をかけてくれた人はおそらくいなかったと思います。私が誰かに言ったこともなかったと思います。学校や何かしらの集まりの中で気づいたら話をするのが増え、遊びに行くことも増え、いつの間にか「友達」になっていたことがすべてだと思います。

「ともだちになろうよ!」

少し照れ臭いようなこの言葉をさらっと言ってしまふAさんの感性が、素敵だなと思いました。

(管理者 南川雄造)



ヘルパー、やってみませんか?

短時間、都合が合うときだけでもOKです! 障害のある方と一緒に外へ出かけたい、病院に付き添いたい、家事をサポートするお仕事です。関心のある方は、サポートネットあすはまで!(業務内容、資格の取り方…なんでも聞いてください)

おおぞら会後援会ニュース

2023 年度
会計報告

春があつという間に過ぎ、いよいよ猛暑の夏がやってきます。後援会会員の皆様もくれぐれもご自愛下さい。今年度は報酬改定により厳しい経営が見込まれる事業もありますので、本会もおおぞら会関係者の皆様にご協力をいただきながら対応してまいります。今後とも、後援会活動にお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会
会長 吉野 壽夫

2023年度 おおぞら会後援会 資金収支報告書

単位：円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	決算額	予算比	科目	予算額	決算額	予算比
会費	880,000	483,000	54.9%	事務費	40,000	18,883	47.2%
個人	850,000	443,000	52.1%	印刷製本費	5,000	0	
団体	30,000	40,000	133.3%	通信運搬費	10,000	0	0.0%
寄付金	120,000	51,000	42.5%	手数料	20,000	18,883	94.4%
個人	100,000	31,000	31.0%	雑費	5,000	0	0.0%
団体	20,000	20,000	100.0%	寄付金支出	500,000	405,000	81.0%
収入計	1,000,000	534,000	53.4%	法人へ	500,000	405,000	81.0%
				支出計	540,000	423,883	78.5%
				当期収支差額	460,000	110,117	23.9%
				前期繰越金	1,602,758	1,602,758	100.0%
				次期繰越金額	2,062,758	1,712,875	83.0%

同 貸借対照表

現金	11,274	仮受金	112,000
預金 1	982,897		
預金 2	830,704		
仮払金	0	次期繰越金	1,712,875
計	1,824,875	計	1,824,875

会費・ご寄付 ありがとうございました (令和 5 年 12 月 1 日～令和 6 年 5 月 31 日集約分)

★会費のご納入 (敬称略)

個人 18 名の方より会費をご納入いただきました。
ありがとうございました。

★後援会へご寄附 (敬称略)

団体 2 社より、後援会へご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

★法人・各事業所へご寄附 (敬称略)

個人 3 名、団体 1 社より、法人・各事業所へ
ご寄附をいただきました。ありがとうございました。

会費・ご寄付は大切に使用させていただきます。
みなさま、ありがとうございました。

後援会へご入会・ご更新をお願いいたします

年会費 個人…2,000円 団体…10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか
下記の口座にお振込みください

郵便口座 00160-0-39163

口座名義: 社会福祉法人おおぞら会後援会

※加入は任意です。

年会費は法人運営を応援し、法人の活動を地域に広めるため大切に使用させていただきます。
はばただよりの発送に際し、振込用紙を同封させていただいております。
(入会・更新済みの場合も同封しておりますことをご了承ください)

information

はばたけ秋まつり開催決定！

2024年9月21日(土)

Stay tuned!



毎年人気のプレイコーナー
ワークショップもあるよ！



模擬店、ステージ♪

心地よい秋の日を楽しんでください！

昨年コロナ後初、大勢のお客様をお招きして秋まつりを開催することが出来ました。
地域の方、ご家族、関係機関の方々をお迎え出来たこと嬉しく思っています。
さて！今年度は9月21日(土)に開催いたします。
詳細は未定ですが、是非、ご予約を開けておいて頂けたら幸いです！

お問い合わせは、はばたけまで！！ → 0422-32-3234

社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|---|----------------|------------------|
| ・ アビリティセンターはばたけ (生活介護事業) | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 (就労継続支援 B 型事業) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野ざきの家 (小規模多機能型居宅介護事業) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは (移動支援[居宅介護]事業) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids (放課後等デイサービス) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ つながなかまの家・さくらハイツ・つむぎの家 (共同生活援助) | | tel 0422-26-1320 |

桜の満開を待って闘病中の母が旅立った。年明けに病が見つかったが、元々認知症の傾向もあり自分の病状を深く理解することが難しくなって、その分深刻さも分からずむしろ穏やかな最期を迎えられたのが幸いだったと思う。大学進学で家を出て以来よく帰ることはあっても泊まることのなかった実家。葬儀までの数日間、眠る母とともに泊まり過ごした。近所の方々が焼香に来て、私も居た頃の懐かしい話をして、知らない話も聞くことができた。独り暮らしの日常で、人と触れ合いたくて毎日外に出て庭の手入れや掃除をしていたことも、いろいろな人の話からあらためて実感した。母の生活していた空間には、気づかない所にも至るところにメモが貼ってあり、生活を豊かにしようとしていた姿や物忘れに不安を感じていた様子も見取れた。その痕跡の数々が親不孝の私には痛く染みだ。もっと優しくすれば、もっと一緒に居てあげればという後悔もきっと続くだろう。でも母が最期に口にした言葉は「ありがとう、さいこう」だった。きっと後悔悔いるであろう娘を氣遣ったのだろう。あっぱれ！（いりくらあきこ）

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 〔頒価 50 円〕

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者：入倉暁子